

浅川改修計画原案の流域説明会 概要 (古里地区)

平成15年5月14日19:00~21:00

長野市立古里公民館

参加者：68名

Aさん

中央橋付近の下駒沢地区は50cm掘り下げると言う説明だが、当初の底は現在より2m下。今回の計画は、当初の底から50cm下げるのか、現在の底から50cm下げるのか。

嵩上げの問題だが、下駒沢地籍でも中央橋は一時より下がったが、三駒橋と落合橋はものすごく急な坂になってしまった。嵩上げすることにより、他への影響がすごく多い。

今までの過程から、ダム以外にないという方針できたのが、方針が変わった。1度高い金で造った物をまたやり直すなんてやめて、浅川の山の方から側溝にどんどん流れて来る所へ、遊水地を数多く造ればよい。問題は土砂が流れて来るから困る。北部幹線(都市計画)が千曲川から須坂まで計画線があり、道路も早くでき、浅川団地の汚水をそこへ入れてもらえば、橋の架け替えの必要はない。

この地域で一番困っているのが利水の問題。全部ポンプアップだが、増水、濁水のたびボランティアでひどい目にあっている。なんとか改善してもらいたい。

県

河床の計画については、従前の計画より更に50cm下げた河床掘削となる。

上流に遊水地等との話は、今日は河川改修の説明だが、流域対策をどうするのか、大きな課題が残っている。別の班で鋭意検討中であり、流域対策のメニューの中にも、言われた遊水地、貯留施設、森林整備等が考えられているが、7月を目処に進めているところである。

北部幹線へのバイパス的な話は、流域対策の一環で考えられるか解らないが、言われた案も1案と思う。

利水(農業用水)については、非常にご迷惑をおかけし恐縮。地元の皆様から情報をいただき、掘削等を実施しているが、従前の計画に浅川がなっていないため、ご迷惑をかけている。地元の皆様と相談しながら、今後の対策を考えていきたい。

Bさん

利水の関係で1点。今までこの地区が依頼するとすぐに直してくれていた会社が、今は入札の関係で、すぐ来てくれないと思う。何とかして頂きたい。県が来て頂ければいいが、1週間も来なければ稲が枯れる。今までどおりに会社に依頼していいのか。

Cさん

入札契約は出来るのでは。

Bさん

10日も15日も待ってられない。1日2日の問題。

県

地元の皆様にご迷惑をかけないように考える。

Bさん

各区に連絡を。

Dさん

総工費がいくらか、いつから何年かけてやるのか、全然解らない。その点を明確にしてもらいたい。浅川地区に知事が来て説明会を行い、要求していた代替案の返事が出たわけだが、上流の皆さんは加害者。上流へ降った雨は、私ども下流の被害者の所へ来る。被害者の私らの所へこそ知事が来て、私らも意見を申し上げたいと思っていた。浅川が氾濫した場合に被害を被る我々に説明に来るのが当然だ。流域対策が未だに全然見えていない。流域対策がなくては、上流で崩落して土石流が来ればひとたまりもない。流域対策をまず先にやるのが、中流から下流の住民の本当の気持ち。上流の皆さんはただ水を流すだけ。困るのは我々。行政は被害者の味方になって進めるべき。住民の声と言うが、この広い範囲の中から、関係のない皆さんが、税金を使わないようにって言われた時どうするのか。検討委員の皆さんと色々やったが、我々被害者の声は潰される。検討委員はほとんどダム反対の学者の皆さん。これを土台にして計画しても、何百億かかるかわからないが、どこから金を出すのか。県費でやるのか。国から金が来るのか。ダムいらなくたって金を返して、国が金をくれるのか。知事はどこから金を持ってくるのか。その辺の具体的なことが全然出ていない。ダムならあとどの位も出さずに済んだはず。

県

大変厳しいご指摘。工費は原案の中では概ね100億円と試算している。まだ原案の段階だが、本年度中に計画案をまとめ、16年度工事着手が目標。クリアーしていかねばならない点は多々あるが、補助金の問題、国の認可等、県としてもクリアーし、早急に着手できるように、現在作業を進めている。先般の説明会でも上流から土砂流出の問題の意見が出た。上流には砂防的な施設を考えていかねばならないと思っている。全体構想が説明できず申し訳ないが、河川改修だけでも早く手を着けて行きたいと言うことで作業を進めている。何とかご理解をいただきたい。

Dさん

先程示されたものを何年間でやるのか。100億を県の支出でやるのか。国で認められるのか。絵にかいたぼた餅。住民の声を聞いて積み上げると言うが、何年かかるかわからない。中途半端な計画、説明会、流域協議会、もしその間に災害があったらどうするのか。いわゆる流域対策を先にやって、集中豪雨や大量の土石流が来た時にカットする対策を取ってから河川改修をするなら解るが、今350m³/sなら流れるが、それ以上の集中豪雨は必ず来る。その時の対策を全然立てずに、我々下流の住民を馬鹿にしたような説明会だと思う。明解な回答がほしい。

県

まだ計画原案の段階であり、こういった形で今後実施していくか、まだ詰め切っていない。今の質問にはお答えできないわけだが、原案がまとまった形で実施計画を立てていくには時間を要する。県でも治水対策上大きな転換をしており、私どもも勉強しながら、よりよい流域対策を進めているところである。

Eさん

流域対策がなければ、ダム無しの代替案として到底納得出来ない。当地区は昔から浅川の堤防決壊で幾度も生命財産を失う貧困と苦難の歴史がある。ダム建設を含めた計画は長年、県の主導で検討され、地元とも協議されて進んできた。今日までのいくつかの協定、約束事がある。一方的に止めてどうなるのか。ダム建設は土砂の流出防止、洪水の調節を図ると説明されてきた。県はあまりに無責任。この川は、改修しても10年20年後天井川になり、また改修する。同じことを何度もやって

きた。それではいけないから、ダム建設を打ち出してきた。河川改修も80%済んでいる中で、一方的にダム中止とはおかしい。行政は継続性が必要。

過去の洪水時、堤防から2m位下で堤防が崩れたり橋が崩れた。反対(住宅側)の堤防の裏へまわれればすごい水が流れている。砂礫のもろい堤防が原因。堤防嵩上げは天井川につながり危険が増大するのでは。千曲川の洪水時に行くと、しゃがんで手が洗える位でも堤防は崩れないが、浅川はそうではない。

狭い川幅では河床掘削すれば堤防の下部が浸食して、もろい砂礫の堤防が洗われ、堤防が決壊してしまう。過去、県職の皆さんから、堤防の傍までは掘削できない、と何回も聞いている。ダム建設の説明時(昭和51年~)は、ダムがなければ川幅が80m位必要と説明を受けており、河床掘削は本当に疑問に思う。

護岸の傾斜を急にすると、もろい砂礫の堤防で持ちこたえられるのか。環境上からも疑問。古里地区の堆積は、浅川上流からの供給だけじゃなく、途中の浅川の周辺からも土砂が流れてきて、土砂が天井川になっていく、と県職の皆さんから聞いている。急にしたこと護岸が保つのか疑問。

ブロック積みや石積みを施工しても、洪水時に大きな石が右岸、左岸にぶつかって堤防を壊していく光景を見ている。それだけ浸食する川。木流し、土嚢積み等あるが、今現在切る木もない。しっかりした河川改修をお願いしたい。

県

8割方改修が終わって来ている中、今回の大きな施策の変更で、一部手を入れなければならない。長野県の治水の考え方の大きな変更。それに合った治水を県として考えて行く。浅川だけでなく、検討委員会で他の8河川も検討している。長野県として今後のより良い治水のあり方を考えて行かなければならない。嵩上げ、掘削等に関しご指摘をいただいたが、基本的には、現状を活かし、壊してやり直すことをできるだけ避け、最適な工法を考えて原案をまとめた。河床掘削も、従前の土台の保護を図りながら行う。上流は、両岸に民家が集中し、家屋移転は困難で、多額の費用を要することから、現状の幅で出来る工法を採用した。土砂対策を考え、強度的に安全な護岸としていきたい。

Fさん

50年確率の河川改修案で、大雨が降った時流量が確保できるか。

知事や土木部長に参加してもらい、被害を被る地域住民の意見を直接聞いてもらいたかった。知事、土木部長が来なかった理由は。

知事は、税金の無駄使いはしないという公約で出ているが、この改修案では、橋の架け替え等二重投資している。費用もダムよりかかる。どんな思いでこの河川改修計画を立てられたのか。

流域対策、上流、中流の皆さんの協力を県としてどのようにお願いしていくのか。長野市は昨年10月から家庭貯留施設を造った家庭に助成金を出し、少しでも治水対策の一環として呼びかけている。県としてはどのようにするのか。

下流域の河床掘削は、随時やっていかなければならないが、どのようにお考えか。

県

5月7日、連休を挟み忙しい中、通知も十分行き渡らずに申し訳なかったが、知事出席の全体説明会を、こちらからは遠い所だが、実施した。この時に下流の古里、豊野からも参加されている。今週からの各地区の説明会は所主催で実施している。知事は、お金はかかっても、将来的に看過し得ない負担を残さない形でやっていくと表明している。浅川についても、ダムをやめて流域対策と河川改修でやっていくこと、これは知事も必ずやっていくと明言しており、その形で進んで行くと思う。

県として計画を提示していく以上、地域の皆さんに説明し、意見をお聞きしながら一つの方向を出して行き、全体をまとめていかなければいけないと思っている。河床掘削については、維持的な面からも、河床の堆積土を取って、川の断面を確保していきたい。本年度も実施していく。

Fさん

上流、中流の皆さんの意識を高揚するためにも、長野市の各家庭貯留施設のような呼びかけをするのか。県として住民のこのように協力してほしいと、行政も住民も一体となって、この対策を望もうじゃないかと、呼びかけていく考えはあるか？

県

総合的な治水対策も県として考えていかなければならない。こういったハード面やソフト面の対応も出てくると思う。まだ具体的な物が出せないが、メニューが出た段階で、住民の皆様に説明しながら対策を講じていくのが県の姿勢。

Gさん

これだけの事業をやるならば、事業費がどの位かかるか知事に説明しなければならぬ。国に予算折衝しなければならぬ。国の予算はあまりつかないと思う。県費だけでは出来ないと思う。出来ない計画を立てることに疑問がある。嵩上げなんて今更考えることじゃない。掘るなら、鉄板を埋め込んで掘削するならある程度可能だと思う。少なくとも事業費がどの位かかるか、知事へ説明してほしい。

県

予算は概ね100億円。原案については4月24日の本部会議で、知事、出納長、推進本部の委員が出て今回の原案について審議し、これで行こうと決定したので、知事も中身については十分承知している。

Hさん

このような説明会も結構だが、国土交通省の認可は取れるのか。取れない説明会を何度やっても意味がない。

県

事業費も大きいので、従前の国の河川改修費用の中に組み込んでいくのが筋だと思う。まだ国には説明に行っておらず、これを原案として県でまとめ、国へ申請していくこととなっている。県としてはこういう形での治水をやっていくと、国に説明する。若干不透明な所はあるが、国に理解してもらえよう進めていきたい。

Hさん

大事な点が抜けた説明会を開いて、裾野を広げてやってきたから国も認可しろと、こうした段取りで行くのか。流域住民に、本当にこの設計と方法なら良い、と献身的に行くのか。素人には分からないが、大事なお金のかかる事を、最も大事な所が分からなくて、ぼやけた説明会を開催しても意味がないのでは。

Dさん

鷺沢市長に知事が説明に行かれたと聞いているが、どの様な資料でどの様な内容を説明されたか。市長は何と答えたか。これが重要。我々は一人一人が長野市民であり、市民の代表が市長。市長が何を考えどう言うか、今日の集会より関心がある。それが全然公表されていない。

7日に行ったと言われるが、行った実績を残しただけ。5月1日の新聞に書かせた。7日までの間に中3日の休みがある。どうやって知り、行けばよいのか。民主主義は手段方法が一番大事である。

今日の説明は、計画ではなく、単なる構想、ビジョンにすぎない。流域対策が入らなければ構想でもない。そういう印象。

流域協議会をつくるとは何事か。形ばかりでは。必要に応じて、とはどういう意味か。中途半端な考えではダメ。

県

4月30日に市長に説明に行った。市長へは資料6頁の河川改修計画原案について、7頁の平面図の2枚で説明。資料の2～6頁の枠組みについては昨年の内に市長及び町長に説明を行っている。市長は、流域対策が出て100%の計画でなければコメントできない、早く流域対策を含めた計画を示してほしい、そうでないと市長としても市民に説明できない、との回答であった。

Dさん

市民に説明が出来ない様な説明は、充実した物ではないと思う。知事に伝えていただきたい。脱ダム宣言をした時に何故“補償宣言”をしなかったか、知事に聞いてほしい。ダムに替わる対策を別に作るのは、それはそれでよいが、期間的に計画通りに進まない事により、その間万一洪水被害が出た場合、誰が補償するのか。県民市民への被害は県知事が補償する、という宣言を同時に出すべきだった。知事に伝えていただきたい。

Iさん

この計画はすばらしいと思う。7日の説明会の通知が無かったと言われたが、私は常会の通知を見て7日に知事の話聞いた。県も128億の資料を明確にした方がよい。一番大事なのは、検討委員会で色々討論された過程で、何故ダムが問題なのか。地域住民が洪水で苦労されていることをどの様に解消するかと言った話であった。それをまとめたのがこの案であったと思う。確かに100%ではないと思うが、皆が心配している浅川をどうするかを、ダム無しで、流域住民に安心できるものを出していく。この案でいいと思う。確かに細かい事はあると思う。7日にも長沼の方から「浅川の方が千曲川より低い。洪水になるとみんな千曲川に入れる。そうなると千曲川は詰まる。千曲川が詰まれば立ヶ花の狭窄部分を削ったらどうだ。」という話があった。今、「嵩上げが心配だ」と言われたが、私は57・58年の洪水で溢れた時、飯山に勤務していた。水田は冠水する。畜産農家の牛や豚が殺される。大変な事。洪水に遭い千曲川は嵩上げをした。そうしたら飯山の方は、今度堤防が切れたらどうなるのか。何でもかんでも千曲川へポンプアップしるでは、水問題は解決するとは思わない。私は、下流の長野県も新潟県も含め、例えば西大滝のダムを無くすとか、新幹線のトンネル作らなくてもいいから、富倉から日本海へ隧道を抜いたらどうだと飯山に居た頃言ったことがある。自然を人間が支配出来ると思う事に問題がある。自然と共合することを考えなければならない。通知の問題だが、自分の知らないことを人の責任にするのはよくない。不十分な点はこれから意見を聞いていい物にしていけばよい。早速、取り組んで頂きたい。

Aさん

よその人は浅川を知らないから色々言うが、県の人でも土石流がどの位溜まるか分からないはず。原案を練るのに地元の人に相談してもらいたい。せっかく出来た橋を壊すことはない。ダムがダメなら、遊水地をどんどん作ればよい。3、4個ずつでも作ればよい。そうすれば一度に流れて来ない。1回作ったものを壊すなんて無駄なこと言わないで。30～40ある舗装道路の全てが側溝になり、山から流れてくる水を、遊水地で溜めればよい。水さえドカンドカ流れなければ、土石流も流れない。浅川の川の上に降った雨だけが流れるのではない。貴重なお金なのだから、橋の架け替えという無駄をせず、生かしてやる方法を考えてほしい。

Jさん

7日、知事がまだ三駒橋の下を見ていないとの指摘に、知事も困っていた。土石・土砂対策が無く、年に何m³/s堆積するかの資料も県には無い。7日のメンバーが来ないから、ニュアンス、知事の様子が分からない。飯山の人には申し訳ないが、立ヶ花が決壊した58年に、ここがもう一步で決壊する寸前の時に、飯山が決壊してくれてよかった。本当はこんな事声を出して言っちゃいけないが、7日にいない人が、あの時のニュアンスで返答できるのか。そういった返答が何も公民館でなされていない実体である。

Kさん

水量だけの説明。数年前に橋が落ちた時は、流速が非常に速かった。流速の計算がない。

朝晩通っているが、降雨時には吊橋には河積の3割位、稲田、吉田、檀田ではどんなに出ても半分。何十年測っても半分。上流の改修が下流にどう及ぼすか、計算の上検討をお願いする。

世界で環境問題が謳われている。温暖化。日本で既に2県が、先駆けてやっている。一般舗装、コンクリート舗装は止め、U字溝は底を抜き、浸透性の物で既に取り組んでいる県がある。夏の照り返しを減らし、浸透性を高めて気温を下げる。このような実験及び取り組みが行われている。長野市はどうか。浅川だけでなく、ちょっとの雨で市街が溢れている。市街化対策が進められているが、県と市が一緒になって、出来れば一般舗装は取りやめ、U字溝の底は全部抜けば、かなりの流量が少なくなる。

長野市は雨水対策に助成金を出している。半額出るが、特定のメーカーの機械(型番まで指定)でなければならない。機能が有ればドラム缶でも良いと思う。もし長野県で同様な助成制度を創設するなら、機能重視として頂きたい。

Lさん

日程の関係でこの会場に来た。御当地は水に悩まされているので手厳しい御意見が出たが、是非嵩上げの問題、浚渫等出された意見を受け止めて頂き、前向きにやって頂きたい。15年度中に改修計画を作りたいということだが、この計画は長野市が同意して、国へ申請し、国より許可を頂くものと思うが、そういう意味でも市民の一定の納得が必要である。出された意見を受け止めて頂きたい。

私は賛成の立場で意見を言う。7日にも参加し、知事、土木部長等の話を聞いた。8割の河川改修はしっかり約束すると言っている。同時に2割の流域対策が重要。当然だが、何としても遊水地を作って頂く。浅川上流地域は木を沢山切った。ダムにより27haの木を切った。スパイラルでは1万数千本の木を切った。ゴルフ場も造られた。保水力が低下している。幾つかの支川の上流にも緑を増やしてもらいたい。7日に長沼の農業委員の方が「我々はダムダムと言うわけではない。内水対策をしっかりとやってほしい。そのためには千曲川の改修が一番だ。県とし積極的に国に働きかけて頂きたい。時間もかかり、新潟もあるから大変なことと思われるが、根本は千曲川。雨が降って浅川の水が千曲に流れれば問題がないわけである。努力をして頂きたい。浅川の水が千曲に流れるよう、ポンプの増強、遊水地をしっかりとやって頂きたい。」と言われていた。同感。そのような対策を今からお願いする。

Mさん

7日に参加し、発言をした。翌日の信濃毎日新聞にこう書かれている。「参加した住民らは土砂の流出防止対策や下流部への遊水池の設置、森林整備の充実などを要望。増水時に下流部で千曲川の水が逆流する問題を解消するため、千曲川自体の改

修を訴える声も出た。」とある。この中で、私が最初にお願いをしたが、上流からの土砂流出の防止をお願いした。浅川の歴史の長い間では、これが一番問題である。これを工事しないことにはどうにもならない。上流に砂防堰堤を作れとの意見もあった。この記事の中にも受け入れられる所と、観念に偏って受け入れられない所がある。7日の席で感じられたのは、少数意見が無視されるのではということ。上流から下流までをみると、この古里地区は全体の中では少数意見。無視されては我々は困る。流域協議会が開かれる前に、知事にここに来て頂き、要望を聞いてもらいたい。そして全体像を描いて頂き、費用がどの位かかるのか、どこからその費用を捻出するのか、説明を聞きたい。もう一度、古里地区で説明会をして頂けるよう、知事にお伝え頂きたい。約束してほしい。

県

大変貴重なご意見。後7日ほど説明会を行い、出されたご意見は知事に上げていく方針。御理解頂きたい。